

第2回新宿区文化芸術振興会議（第3期） 議事要旨

■開催日時 平成27年3月20日 午前10時から午前12時まで

■開催場所 新宿歴史博物館2階 講堂

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 乗松好美 松井千輝 大野順二 原口秀夫
大和滋 佐藤清親 舟橋香樹（欠席 根本晴美）
*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順（会長・副会長を除く。）
事務局 加賀美地域文化部長 橋本文化観光課長 原文化観光係長 楠原主任

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(1)から(2)までを一括して審議することを確認した。
- (3) 前回会議を欠席した大野委員からあいさつがあった。
- (4) 高階会長から、会議の前に吉住健一新宿区長から「新宿の文化芸術の振興」に関するあいさつがあったことが報告された。

2 議事

- (1) 前回会議内容の確認について
資料1-1及び資料1-2に基づき、前回会議（平成26年10月23日）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 文化芸術振興会議の調査審議事項について
ア 資料2、資料3-1から3-3、及び参考資料に基づき、専門部会で取りまとめた調査審議事項（案）について、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。
イ 意見交換を経て、調査審議事項を「東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた新宿区の文化芸術振興」に決定した。
- (3) 意見交換

【以降、意見交換】

- ・専門部会では、東京オリンピックをいい好機として、どのような取り組みをしていったらいいのかということ考えた。
- ・東京オリンピックのために取り組むということだけを考えてしまうと、イベント主義になってしまう可能性がある。イベント主義にならない持続的な取り組みを考えていくときに、新宿フィールドミュージアムをいかに活用し、拡充・拡大していくのかの検討が必要。
- ・オリンピックの開催期間は、7月下旬から8月だが、イベントの実施や外国の記者が日本を報道するなど開催1か月前くらいから動き始める。日本の文化を含め、東京オリンピックの取材がこの「1か月前」である7月前に来ることを考慮すると、10月から11月に開催している新宿フィールドミュージアムを、この期間に始めることは考えられないか。
- ・新宿区の場合、文化事業が1年中実施されており、発信期間を10月、11月に限る必要は無い。

- 本来なら、新宿フィールドミュージアムという仕組み、広報体制は、1年間を通して行っても良いが、予算の都合やイベントの事務集約の都合で、今の実施形態となってきたのだろう。
- 今後の取り組みの方向性として、この新宿フィールドミュージアムの開催時期の拡大等、既存事業の拡充ということを一つの案として考えても良いのではないか。
- 東京文化ビジョンでは、都内の各地域の魅力をどう発信するか、地域ごとの魅力をどうアピールしていくかということ、いくつかの市区町村を例にして、紹介している。神楽坂とか上野とか、発信の拠点を設定して、東京都として地域の魅力を発信していくことを考えているようなので、新宿区としても文化活動の質の底上げを考えていく必要がある。
- 新宿区内では、新宿駅周辺や大久保地域などが、海外から来た人、恐らくアジア系の方々に魅力があるようで、今後は国際的な視点を持った施策が重要となる。
- 新宿区では、かなりの外国人が定着・定住し始めているので、国際的視野を持った事業を実施するようなことも考えたい。
- まずは新宿フィールドミュージアムの取り組みを地道に続け、区内の個々の文化芸術団体や文化施設が活動しやすい基盤ができるよう、情報発信等の側面的支援としての機能を充実させることを進めていけばよい。そして長期的には、より大きな、世界に向けた情報発信もできるようなイベントを考えていけばよい。
- 新宿フィールドミュージアムの拡大・拡充として、通年、通年とはいかなくても当面は期間を延ばして、新宿区では区内全域で文化活動が行われていることをきちんと周知していくことが大切。
- 新宿フィールドミュージアムは認知度が一定程度高まってきたので、更にもう一步広げることとあわせて、新宿の特徴は何かということをしっかり考えたい。
- 専門部会では、フィールドミュージアムや、地域の文化資源の多さ、多様で規模の大きな文化的活動が新宿区でなされているということが顕在化し、活発な議論となり、非常に成果が大きかった。
- こういった活動を知っている人、実際に享受している人がどれくらいいるのかという点を考慮すると、もっと広く周知していくために、実際に芸術活動をするだけでなく、ボランティアへの参加・誘導のしくみづくりが必要になってくる。
- ベネッセアートサイト直島（以下「直島」という。）でも、地元の住民が、来訪者に自分たちのまちや地域を綺麗に見せたいということで、自主的に掃除をしたり花を植えたりという活動を行い、それが地元住民の生きがいに結びついているという話もある。新宿区の文化活動も、そのように盛り上がっていくと良い。
- コアイベントとしてフィールドミュージアムをさらに拡張していこうという方法は非常に良い案。
- 新宿というまちのイメージが、文化的資源が多すぎるがゆえに分散化し、新宿というと「これ」というイメージが湧きにくい気もしているので、行政として、文化芸術施策として集中して一つのことに取り組む必要もある。
- 新宿区の大らかな特徴というのは、外国人の多さが際立っているため、多文化共生が挙げられる。2020年に向けての良い機会なので、外国人との交流、多文化共生が新宿の特徴なのだというイメージができると良い。
- 例えば、戸山ハイツに大規模なアーティスト・イン・レジデンスを作り、そこに一定期間、外国人のアーティストが滞在して作品を生み出し、それがまちの中に展開していく活動などは、新宿を印象付ける一手になるのでは。
- 新宿らしさをうまく活用できるような外国人とのかかわり方を考えていきたい。
- イベント、取り組みに関して外国人が分かるような新宿のロゴ、サウンドロゴがあると、外

国人にも分かりやすく浸透していくと思う。

- 現在、教育現場でのグローバル化が一つのキーワードになっており、国際的に活躍できるような人材育成が求められている。とすると現場では、英語科教育のように捉えられがちだが、芸術、身体表現といったものは、もともと国際用語的なもので、色や音といったものは、言語ではなく世界中の人々が理解しあえるものだ。
- 実技分野の素養を持った我が校の生徒たちが、東京オリンピックのようなイベントでどのように関わっていけるかと考えた時に、1つ気になるのが、東京文化ビジョンと新宿区とのあり方である。
- 東京文化ビジョンは、まだ具体的な方策は出ていないが、上野を中心としたイメージ図が出ており、恐らく今後、こういうイベントをやりなさいという形で、都立高校には直接指示が入ってくると思われる。その時に、新宿区の文化活動とどういうすみ分け、枠組みの中で動いて行けばよいのかということが少し気になる。
- 新宿フィールドミュージアムの拡充、定着がこの3、4年間続き、どんどん周知されれば、フィールドミュージアムは新宿だという逆の発想も成立してくる。
- 2020年、または、それ以降、定着し拡充したフィールドミュージアムがベースになって、住民が主役になったまちづくりが進歩していくのではないか。
- 米軍基地が近くにあったころの立川はかなり暗いイメージだったが、再開発事業の一環のプロジェクトにより、作品を設置するためのまちづくりという気概が生まれ、市民の意識が変わってきた。新宿区もまちづくり、再開発が行われているが、そういうところに、新宿区とかかわりのある人の作品や、若い人の作品を設置していただければよい。
- 前回の会議で、ピエンナーレやトリエンナーレという形で、若い人たちを取り込む取り組みがあっても良いのではないかという提言をしたが、それは神戸のコンテンポラリーダンスのコンクールをイメージしたから。まち全体に高校生、大学生があふれていて、文化的なものと体育的なものが融合し芸術性に繋がっていく取り組みが2020年に向けてあっても良いのではないか。
- 前回の会議で、議論になった内容を専門部会で有機的に非常に良い形でまとめて行けた。
- 調査審議事項として、これから取り組むべきこととして、新宿フィールドミュージアムの発展とさらなる活用という今後の方向性が示されていることも良い。
- 東京都の、東京オリンピックを担当する組織に、それぞれの区市町村に対して、東京都として期待している役割・構想を伺った。それは、まさに上野を中心とした1つのゾーン、もう1つは森ビルという民間有力不動産企業を中心とした六本木国立新美術館のゾーン、それと少し特殊なところとして、下北沢近辺を念頭に置いた小さな劇場、そういったところを文化拠点としてみたいという内容で、その構想には、新宿区は出てこなかった。
- 東京都庁が新宿にあるわけなので、新宿も何か関わることはできないか？と話してみたところ、新宿ではどのようなことを考えているのかと聞かれたので、新宿フィールドミュージアムを念頭に置きながら、初台のオペラシティ、都庁、新宿中央公園、美術館のある高層ビル群、フリースペース、歌舞伎町から大久保に流れて神楽坂に入るゾーンも、一つの文化ゾーンとして考えてはどうかと提案してみた。
- 東京都の担当者は、文化庁や文部科学省がどんなことをやりたいのかがハッキリ分かっておらず、自分たちも同じ状態になっていると話していた。
- 新宿区としては、東京都が23区をどんな風に活用しようとしているのかを、できるだけ組織的に、的確に把握し、あるいは、こちらの方から新宿はこんなことができるということを積極的にアピールして、自分のところの役回りがある程度早くイメージ化させることが必要。
- 新宿フィールドミュージアムで、あらゆる活用を行っているわけだから、どの部分を強化し

ていくのか、またどの部分を付け加えれば、東京都全体で取り組む中でそこを強く担うことができるかという発想でアプローチしていくことが有効である。

- 実演団体としては、4月からフィールドミュージアムのような取り組みがあると大変嬉しい。
- 前回の報告によると、東京オリンピックの取り組みで盛り上がっているようだが、具体的にどうしたら良いのかという点がさっぱり見えていない。
- 2020年は、ベートーヴェンの生誕250年である。日本でベートーヴェンを嫌いな人は誰もおらず、ベートーヴェンと言えば、「第九」である。聖火リレーと共に、日本全国で「第九」を地元の合唱団と一緒に取り組めたら、たいへん盛り上がる。日本人がこんなに「第九」を歌えるということは、世界的にみても絶対誇れることである。
- 聖火リレーの着地点として、新宿から発信することができるかどうか定かではないが、合唱で歌っている障害者の方も、ソリストとして活躍されている障害者の方もいる。そういった方々も交えて東京オリンピックと一緒に歌う取り組みは、文化とスポーツを日本は、東京は大切にしているとアピールできる絶好のチャンス。
- 外国人旅行者が一番期待していた場所として大久保が挙げられたことを大変うれしく思う。
- 市長がまちのイメージを変えようと頑張っている川崎市でもフランチャイズとして活動しているが、ミュージア川崎での活動を通して「音楽のまち・かわさき」ということが、子どもたちのまちのイメージとして浸透しつつある。
- 子どもに向けて、音楽教室等の活動の拡充は絶対に必要であるので、東京オリンピックと子ども向けのコンサートに、新宿区として率先して具体的に取り組んでいただきたい。
- 新宿文化センターのロビーにも、無料Wi-Fi環境を整備していただきたい。
- 東京オリンピックはあくまでも通過点というところを中心に話し合っていた方が良い。
- 昨今、SNSがあることから、若い人たちは、写真を撮るために出かける、写真を撮る場所があるからそこに行くという発想が増えてきている。
- 都庁の近くを歩いていると、外国人の方に「都庁はどれですか？」と聞かれることがある。都庁を擁する新宿だけでなく銀座にもいろいろな建物があって、外国人は建物めぐりをして、写真もたくさん撮っているので、そういった建物にフォーカスして、フィールドミュージアムと結び付けていく方法はとても良いのではないか。
- 方向性をしっかり固めて行かなくてはいけない。
- 新宿は、非常に多様性があり、いろいろな方がいるので、その方たちに対応していかなくてはいけない反面、新宿というのは一体何？という核となる部分もきちんと打ち出していかななくてはならない。
- 日本は、サブカルチャーが有名であり、外国人の方たちは、そのサブカルチャーにとっても注目しているにもかかわらず、今のところ新宿では、その点では何も大々的に発信していないのは勿体ない。
- 1つの事例として、『四月は君の嘘』という漫画では、練馬区が漫画とコラボレートし、区役所に行くと、漫画の「聖地めぐり」のパンフレットが置いてあった。また、練馬区内に路線を持つ、西武鉄道が積極的に関わり電車内でもPRされていた。
- アニメ放送があると、放送が終わった後も、ここはその漫画のまちとして取り上げられるので、いろいろな方がそのまちを訪れ、まち自体もそれを誇りに思う部分があって、活性化する。
- 音楽に全く関心のなかった子どもたちが、その漫画を読むことによって、練馬区の文化センターに足を運んで音楽を聞いてみようと思ったり、クラシックを聴くようになったりなど、音楽に関心を持つようになったという事例もある。
- 秩父市を舞台とした『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない』という漫画は、映画化も

されたが、漫画や映画が終わっても、その舞台となったところに、たくさんの方が外国人の方も含めて訪れ、写真を撮ったりしているという話もあるので、漫画やアニメという切り口が1つはあっても良い。

- Wi-Fiについて、シンガポールの事例だが、空港で申請すれば、1人1IDが付与され、そのIDを持っていると町中で使えるので、そういった方法も新宿区の無料Wi-Fi環境の整備で検討していただきたい。
- Wi-Fiについては、調査だけでなく、早急に始めていただきたい。
- SNSやスマートフォンが普及している状況なので、ある場所に行ってそのアプリケーションを押したら、この場所は、実は200年前こういう土地だったという情報が簡単に分かるようなソフト開発はできないか。そうすることで、今の新宿にある地域資源を活かしながら、上手に今あるものがアピールでき、イメージアップになる。
- 東京文化ビジョンや、文化庁の文化施策の方向性が見えづらい中で、新宿ならではの今ある資源、人材をうまく活用してお金をかけずに見せ方を工夫する、私たちの地域から、ボトムアップで、どんどんイメージアップを図っていけばよい。
- 子どもを育てる親の視点では、これを契機に、子どもたちは文化を体験し、学ぶ機会ができ、より新宿に愛着を持って、東京オリンピックだけでなく、その後の新宿の担い手に育っていくと思う。
- 子どもや高齢者や障害者、また外国の人たちは、それぞれが様々な場面で、情報にアクセスしづらく、また、情報を得にくいという共通したハードルがあるため、そういった人たちに対する施策を行うことが必要。既に、新宿区には、乳幼児の文化体験プロジェクトや、整備された点字図書館などがある。東京オリンピックを契機として、その先を見据えた新宿独自のビジョンをボトムアップで作るためには、既に行っている施策をクローズアップすること、さらに、なかなか文化にアクセスできない人たちに対しての施策を行うことで、優しいまちづくりができると思う。
- オリンピックに向けて、国や都がどうしようとしているかとか、新宿区はこうしていこうという議論を行っている中で、当然、他の区でもおなじようなことをしているはず。そういった周辺の地区と情報交換はしているのか。そういう情報も得ながら進めていくのが大事。
- 都から新宿は何を期待されているかも知っておく必要がある。
- 中村彝アトリエや林芙美子記念館といった有名人の具体的な何かがあると、この土地にこういう人が活動していたのだとわかって良い。最近、史跡登録された西條八十も、登録をしたら歌など具体的にみんなが知っているものを表示する仕組みができると思う。
- 高田馬場に行くと、鉄腕アトムを流しているがそういったイメージのものでできると良い。
- クリスマスが近づくと、「シングルベル」が町中で鳴りますが、オリンピックが近づいたら「第九」を流すというように盛り上げていけたらよい。
- 「新宿シンちゃん」、「同心くん」とあるが、ゆるキャラのようなものも良い。
- 日本語のメディアでは、ロンドンオリンピックが非常に成功したとされる報道がほとんどだったが、英語のメディアでは、予算カットや人員削減など異なるニュアンスで伝えられており、そういった状況も踏まえて、東京オリンピックは大事な契機であるから、その契機を上手に活用して、新宿や区民、来街者の方々にもメリットがあるようにしたいが、その先のこともどうしても考えておかなければならない。
- 日本は、縮退社会なので、既存のものをうまく使って、既存のものの良いところを見つけて、新しい価値を見出していくことに焦点を当てざるを得ない。
- 最近、いろいろな自治体で「まち歩き」が増えており、文化財でなくてもちょっとした自然

や歴史を魅力と捉えられているので、新宿にも今まで想定されていなかったような地域資源が多分にあのではないか。そういった発見は、行政ではなく、地域、来街者、民間、それぞれの方々のイニシアチブで発掘していくものなので、それを上手に情報発信のツールに載せていくことに、私たちの役割の1つがある。

- 5年、10年の単位で活動していくと大きく都市イメージが変わっていくため、フィールドミュージアムは、新宿文化センターも絡めてうまく拡充して使っていくことが重要。
- 東京スカイツリーの完成前から委員会を設置し着々と準備をした台東区では、完成後は、来訪者がどっと流れてきている。準備は報われるので、新宿区も東京オリンピックに向けて着々と準備を進めれば良い結果が生まれるのではないか。
- 商店街、おかみさん会、観光協会など、現場の意見をうまく取り入れられるような仕組みづくりをして、東京オリンピック対策をした方が良い。
- 国や東京都の方針を待つのではなく、こちら側からある程度の道筋を設定してしまう方法で進めても良い。その際、やはり現場、コミュニティのご協力がないと成り立たないので、そのあたりの意見とこの委員会の議論を集約し、マッチングする役割をこの体制で担えば、必ず良い効果、成果が生まれるのではないか。
- 新宿フィールドミュージアムの拡大は、参加の拡大と同時に、時期の拡大を考えても良い。
- 文化センターへの行きにくさを解消しなければならない。行きやすい方法や案内を示すとか、行きにくいけれども行かざるを得ないような集客イベントを考える必要がある。
- コアになるイベントは、それを目当てに外国人の方を含めた集客ができるような何かを作りたい。直島では、コアイベントをやるときに、芸術家はもちろん、地元の人が単に手伝いではなく、自分たちも一緒に参加するんだという意識を上手につくりあげてきた。新宿でもそういったことが考えられる。
- 新宿には、歴史や、外国人来街者・居住者が多いがゆえに成立するエスニック料理も含めた食文化、高層ビルなどが挙げられる。さらにサブカルチャーも考えられる。そういった新宿の魅力を新宿フィールドミュージアムに反映できれば、新宿のまちの文化として発信していけるのではないか。
- 誰が見ても分かりやすい見せ方という意味では、ロゴが必要になってくるので、新宿フィールドミュージアムで作成したロゴも、上手に活用できる形にしたい。
- 今までの経験から、東京オリンピックの準備について申し上げますと、次のリオのオリンピックが始まるまでは、なかなか次の開催地のことはオープンに動かない。しかし、2016年になったら、急にトップダウンで動き始める。そのため、私たちが、新宿はこんなことができるという提案を東京都にできるのは、2015年の間となる。2016年になってから考えていたのでは遅い。
- こちらでタイムリミットを決めて、2015年のうちに東京都に対してアピールをしておく必要がある。新宿では、既にフィールドミュージアムという取り組みを行っており、さらに充実させたいという説明であれば説得力もあるし、地に足の着いたアピールとなり効果的である。
- 東京オリンピックを見据えた新宿区の文化芸術施策についての調査研究、議論の整理、資料のまとめを専門部会にお願いしたい。

3 事務連絡等

今回の会議は、新年度に入り6月頃の開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。また、本日の議事で、今期の調査審議事項は「東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた新宿区の文化芸術振興」と決定された。

4 閉会

会長のあいさつをもって、午前12時に閉会した。